



平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える  
神道ジャーナリズム誌

**本号の内容** 【主張】菅新内閣に立ち向かう（木川智）：1 / 【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る（39）（仲村之菊）：2 / 花瑛塾九月活動報告：4 / 【連載】記録沖繩戦⑦ 軍民・日米それぞれの視点から（沖繩戦史研究会「棒兵隊」）：8 / 【連載】葦津珍彦と神道ジャーナリズム 「時の流れ」を読み解く（鎌倉佐助）：13 / 花瑛農園 学生支援と農業体験 体験（仲村之菊）：15 / 編集後記：20

1部 1000円

# 菅新内閣に立ち向かう

神苑の決意 木川智

【主張】八月末の安倍首相の突然の辞意表明をうけ、自民党は九月十四日、両院議員総会を開催し、安倍政権で長く官房長官を務めた菅義偉氏を新総裁に選出し、同月十六日、国会において首班指名選挙がおこなわれ、ただちに天皇陛下による首相親任・閣僚認証のもと、菅新首相のもと新内閣が発足した。

しかし、そもそも今回の自民党総裁選は、全国の一般党员による投票を認めず、国会議員と都道府県連による簡易型の総裁選となっており、総裁選のあり方の妥当性・正当性については、自民党内からも疑問が呈されていた。

派閥領袖が党内を牛耳り、ポスト獲得のため党内で権力闘争が行われ、組閣名簿が飛び交い、猟官運動が公然と繰り広げられる一方で、党员の声を無視するかたちで強行された今回の総裁選は、菅新首相が派閥領袖の動向を伺い、また財界など一部の利害関係者の意向を優先し、国民の声を平然と無視する政治を行うであろうことを示唆しているといえる。

そうして示唆された今後の菅新首相の政治姿勢は、言うまでもなく、これまでの安倍政権・安倍政治の継続であり、菅新首相率いる新内閣とは、安倍政権・安倍政治の劣化コピー、あるいは安倍政権・安倍政

治の負の部分の純化・強化させたものといえる。そもそも菅新首相自身が第二次安倍政権で一貫して官房長官を務めてきたわけであり、菅新内閣はいわば安倍首相なき安倍政権、菅新首相を担ぎ上げた「第三次安倍政権・第一次菅新内閣」とでもいえるべきものである。

実際、安倍政権での沖縄の米軍基地問題は、官房長官であった菅新首相が差配していたが、そのなかにおいて菅新首相の側近の和泉首相補佐官が実務の一切を仕切っていたともいわれている。そして、菅新内閣で和泉首相補佐官は留任しており、沖縄の基